

■第1章■ Excel の書式を反映させる

STEP 1. Excel の日付を Word に差し込みましょう

USB メモリにある Excel の「日付の書式」の日付データを Word に差し込んでみましょう。

	A	B	C	D	E
1	短い西暦	長い西暦	短い和暦	長い和暦	
2	1970/5/7	1970年5月7日	S45.5.7	昭和45年5月7日	
3	1970/5/8	1970年5月8日	S45.5.8	昭和45年5月8日	
4	1970/5/9	1970年5月9日	S45.5.9	昭和45年5月9日	
5	1970/5/10	1970年5月10日	S45.5.10	昭和45年5月10日	
6	1970/5/11	1970年5月11日	S45.5.11	昭和45年5月11日	
7	1970/5/12	1970年5月12日	S45.5.12	昭和45年5月12日	
8					

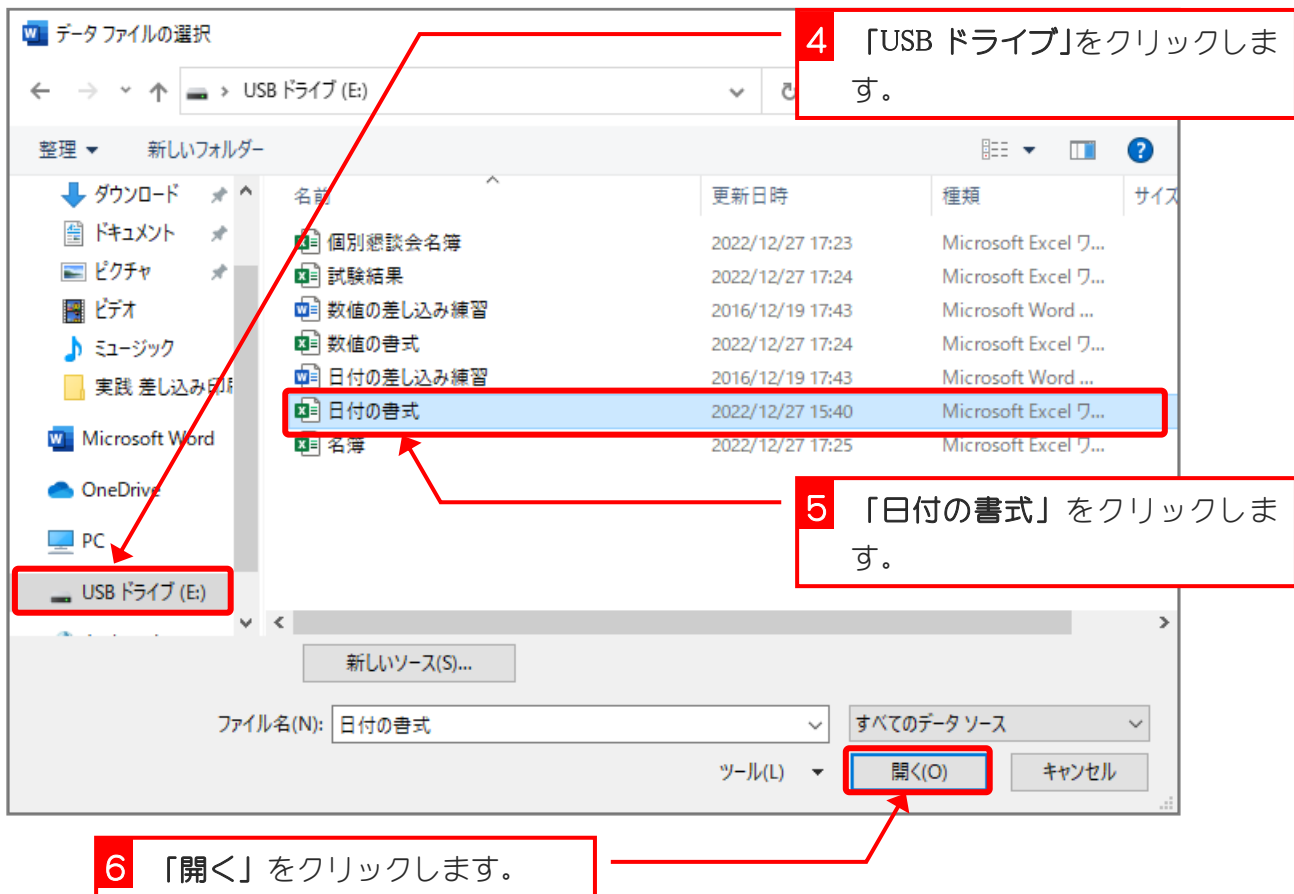
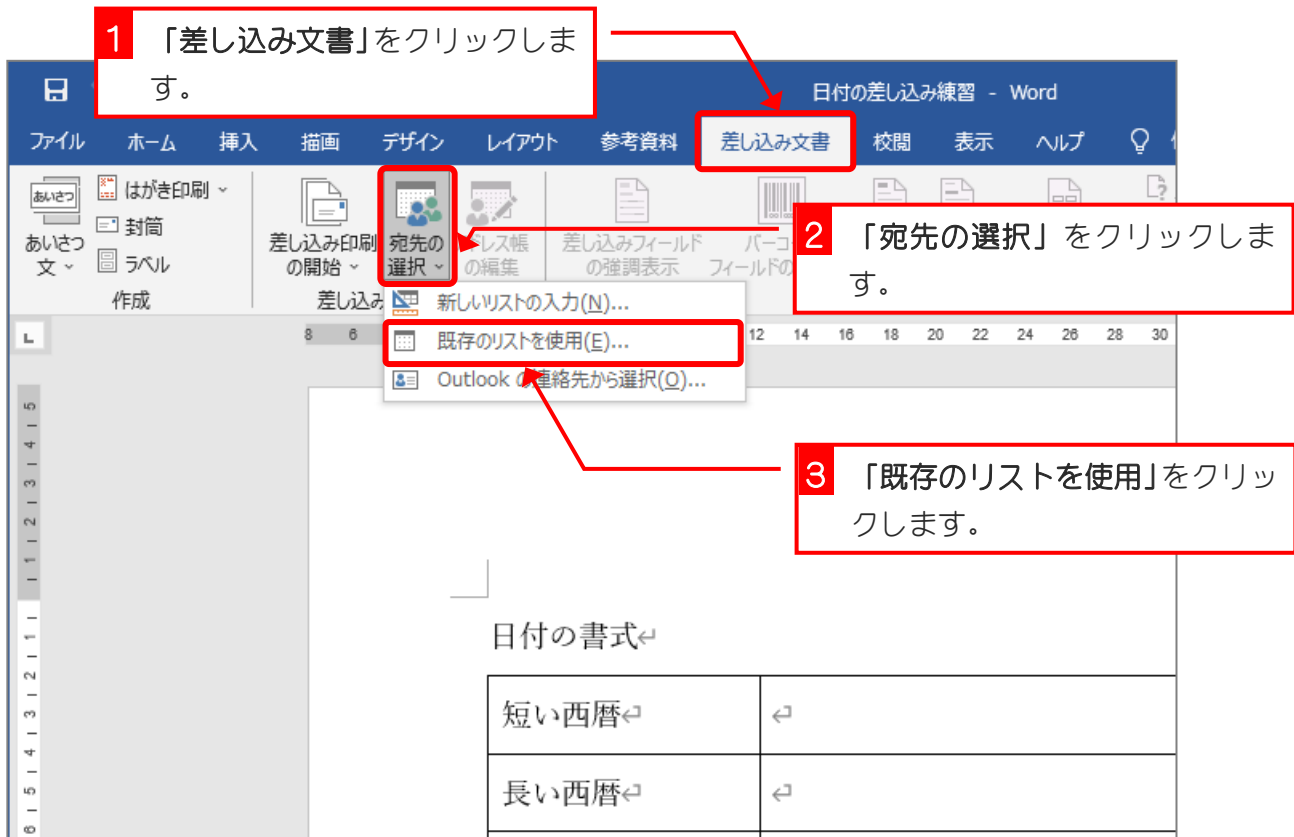
Excel の「日付の書式」にはこのような日付のデータが入っています。

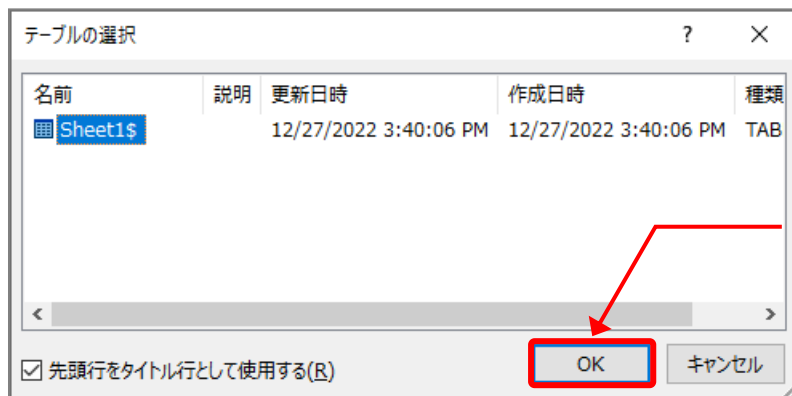
1. 「日付の差し込み練習」を開きましょう

1 USB メモリにある「日付の差し込み練習」を開きます。

日付の書式	
短い西暦	
長い西暦	
短い和暦	
長い和暦	

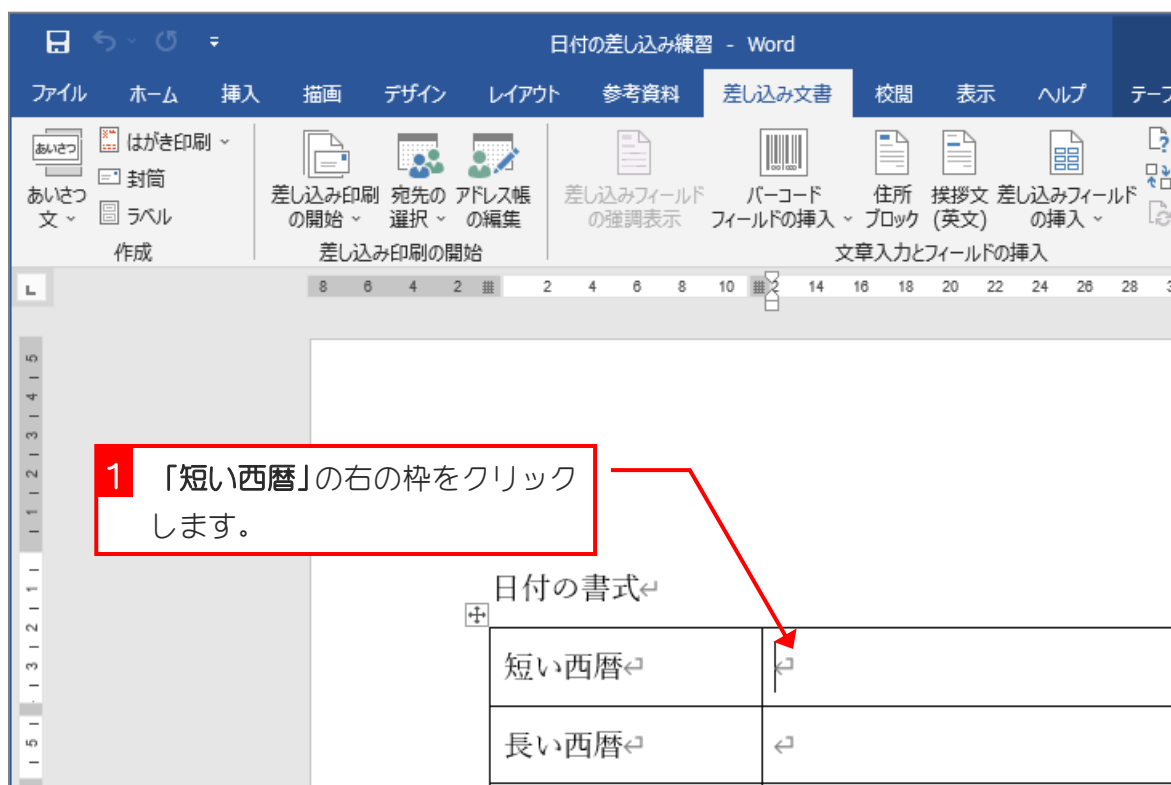
2. USBメモリの「日付の書式」をリストに指定しましょう





7 「OK」をクリックします。

3. 表の中に差し込みデータを配置しましょう



2 「差し込みフィールドの挿入」の下半分をクリックします。

3 「短い西暦」をクリックします。

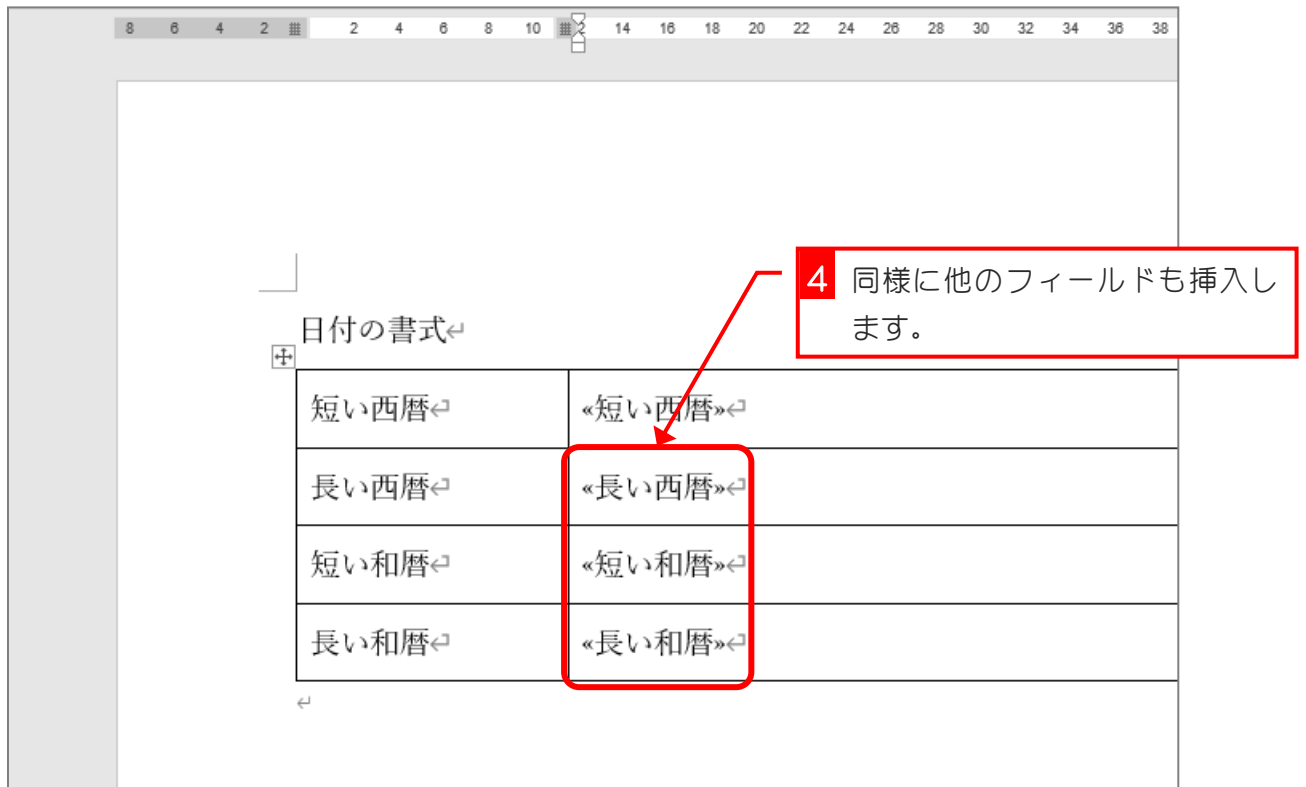
Wordの「差し込み印刷」タブの「差し込みフィールドの挿入」メニューが開いている様子。メニューには「短い西暦」「長い西暦」「短い和暦」「長い和暦」が並んでいる。赤い矢印とボックスで操作手順が示されている。

フィールド「短い西暦」が挿入されました。

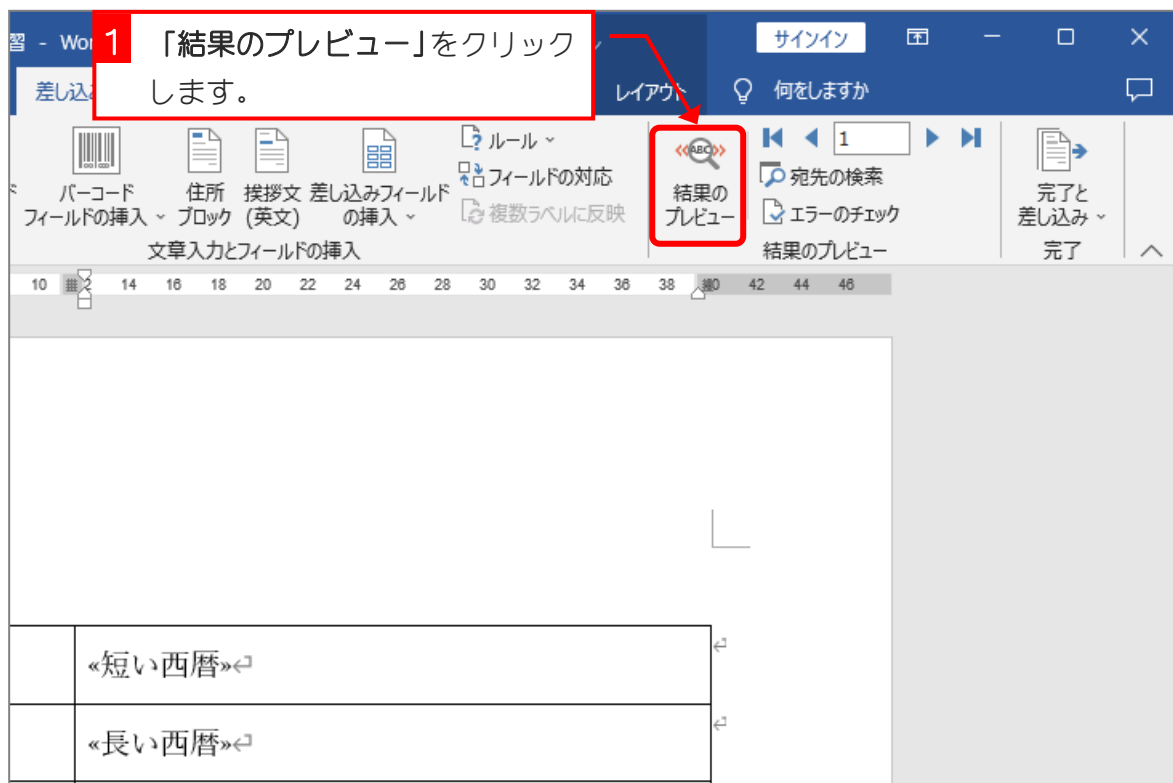
日付の書式

短い西暦	«短い西暦»
長い西暦	↵
短い和暦	↵
長い和暦	↵

Wordの編集画面で、先ほどの操作の結果として、表に「短い西暦」フィールドが挿入されたことが確認できる。緑色の吹き出しで「フィールド「短い西暦」が挿入されました。」と通知されている。表の1行目は「短い西暦」と「«短い西暦»」が挿入されている。他の行は「長い西暦」「短い和暦」「長い和暦」のフィールドが挿入された状態（↵）を示している。



4. 差し込みの結果を確認しましょう



8 6 4 2 2 4 6 8 10 14 16 18 20 22 24 26 28 30 32 34

日付が表示されましたが、Excel で設定した書式が反映されていません。

日付の書式

短い西暦	5/7/1970
長い西暦	5/7/1970
短い和暦	5/7/1970
長い和暦	5/7/1970

	A	B	C	D
1	短い西暦	長い西暦	短い和暦	長い和暦
2	1970/5/7	1970年5月7日	S45.5.7	昭和45年5月7日
3	1970/5/8	1970年5月8日	S45.5.8	昭和45年5月8日
4	1970/5/9	1970年5月9日	S45.5.9	昭和45年5月9日
5	1970/5/10	1970年5月10日	S45.5.10	昭和45年5月10日

Excel の日付データを Word に差し込むと元の書式は反映されません。
Excel での書式を反映させるには少し手を加える必要があります。

STEP 2. フィールドコードを編集しましょう

1. フィールドコードを変更しましょう

1 短い西暦の日付の上で右クリックします。

2 「フィールドコードの表示/非表示」をクリックします。

日付の書式	
短い西暦	5/7/
長い西暦	5/7/
短い和暦	5/7/
長い和暦	5/7/

フィールドコードが表示されました。

{ MERGEFIELD 短い西暦 }

というのは「差し込みフィールドの短い西暦をここに挿入します。」という意味のフィールドコードです。

日付の書式	
短い西暦	{ MERGEFIELD 短い西暦 }
長い西暦	5/7/1970
短い和暦	5/7/1970
長い和暦	5/7/1970

3 フィールド名の後ろのスペースに続けて半角で「¥@」と入力します。

短い西暦	MERGEFIELD 短い西暦 ¥@
長い西暦	5/7/1970
短い和暦	5/7/1970
長い和暦	5/7/1970

¥@

は日付や時刻の表示形式を設定するためのスイッチです。

4 続けて半角で「"yyyy/M/d"」と入力します。

日付の書式

短い西暦	MERGEFIELD 短い西暦 ¥@"yyyy/M/d"
長い西暦	5/7/1970
短い和暦	5/7/1970
長い和暦	5/7/1970

"yyyy/M/d"

は日付を 1970/5/7 の形で表示するための文字列です。今回の例の場合はダブルクォーテーション (") で囲む必要はないのですが、表示形式の途中に半角スペースがある場合などはダブルクォーテーション (") で囲む必要があります。

また、月を表す **M** は大文字なので注意してください。

日付の書式

短い西暦	ME
長い西暦	5/7/1
短い和暦	5/7/1
長い和暦	5/7/1

5 フィールドコードの上で右クリックします。

6 「フィールド更新」をクリックします。

メニューの検索

- 切り取り(I)
- コピー(C)
- 貼り付けのオプション:
- フィールド更新(U)**
- フィールドの編集(E)...
- フィールドコードの表示/非表示(...)
- A フォント(E)...
- 段落(P)...
- 記号と特殊文字(S)

日付の書式

短い西暦	1970/5/7
長い西暦	5/7/1970
短い和暦	5/7/1970
長い和暦	5/7/1970

日付の表示形式が変わりました。

参考 日付/時刻の表示形式

スイッチ (¥@)

書式記号	表示形式	表示例
yyyy	西暦の年を 4 桁で表示	1970
yy	西暦の年の下 2 桁を表示	70
ggge	年を元号で表示	昭和 45
ge	年を省略した元号で表示	S45
MMMM	月の名を英語で表示	September
MMM	月の名を英語の省略形で表示	Sep
MM	1 桁の月の前に 0 を付けて 2 桁で表示	09
M	1 桁の月の前に 0 を付けずに表示	9
dddd	曜日を英語で表示	Thursday
ddd	曜日を英語の省略形で表示	Thu
dd	1 桁の日の前に 0 を付けて 2 桁で表示	07
d	1 桁の日の前に 0 を付けずに表示	7
aaa	曜日を 1 文字の日本語で表示	木
hh	1 桁の時間の前に 0 を付けて 2 桁で表示	08
h	1 桁の時間の前に 0 を付けずに表示	8
HH	1 桁の時間の前に 0 を付けて 2 桁で表示 (24 時間制)	20
H	1 桁の時間の前に 0 を付けずに表示 (24 時間制)	20
mm	1 桁の分の前に 0 を付けて 2 桁で表示	03
m	1 桁の分の前に 0 を付けずに表示	3
ss	1 桁の秒の前に 0 を付けて 2 桁で表示	06
s	1 桁の秒の前に 0 を付けずに表示	6
am/pm AM/PM	午前 (AM) と 午後 (PM) を 大文字で表示	PM